

歌の伴奏楽器として「ウクレレ」を用いることの可能性 －保育者養成校の「表現」の授業を履修した学生の自由記述より－

Possibility of “the Ukulele” as an Accompaniment Instrument of the Song －From Free Description-Style Questionnaire Survey for Students who Learn a Class “Expression” in the Childminder Training School－

(2019年3月29日受理)

岡崎 三鈴 中 典子
Misuzu Okazaki Noriko Naka

Key words : ウクレレ, 伴奏楽器, 表現, 歌, 保育

要 旨

本研究では、保育者養成校の「表現」の授業を履修し、ウクレレを体験した学生の自由記述より歌の伴奏楽器として「ウクレレ」を用いることの可能性を探った。

2019（平成31）年1月中旬に、表現系の授業を履修している履修者に対して研究の趣旨を説明し、アンケートの協力を依頼した。協力に同意が得られた67人の履修生を6名ずつのグループに編成してウクレレ体験を実施した。体験後に、ウクレレを弾いてみての感想を自由記述形式で記載してもらった。インタビューの内容については、KJ法をもとにして分類整理を行い、グループ編成・図解化・文章化を行った。

インタビュー内容について、分類整理をすると49の〈データラベル〉ができた。それらにもとづいて、第1段階のグループ編成を行うと、6, 7の〈データラベル〉を除く47の〈データラベル〉で8 [グループ], ウクレレは [めったに弾くことができない], [小さい], [難しかった], [弾きやすかった], [ギターと似ていた], [音がきれい], [楽しかった], [もっと弾いてみたい] ができた。これらのことから、協力者は、ウクレレがどこでも弾けて持ち運びも簡単であり、ギターより好きになり、覚えたら楽しそうなので練習してみたいと感じていることが明らかになった。

1. 目 的

保育者を目指す者にとって、「保育所保育指針」, 「幼稚園教育要領」, 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における5領域「健康」, 「人間関係」, 「環境」, 「言葉」, 「表現」の学びは必須である。このうち、「表現」の目標は、「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする（保育所保育指針, 幼稚園教育要領, 幼保連携型認定こども園教育・保育要領, 2017）」である。特に、音楽についての内容は、「音楽に親しみ、歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を使ったりするなど楽しさを味わう（保育所保育指針, 幼稚園教育要領, 幼保連携型認

定こども園教育・保育要領, 2017）」である。このことから、音楽に焦点をあてた保育をするには、子どもたちが楽しく歌ったり、楽器を使ったりして活動に参加できるようにするために、保育者が子どもに合わせて伴奏することが求められる。

子どもの歌に対する伴奏楽器をCiNiiで検索すると、ピアノ伴奏による弾き歌いの指導法に関する先行研究（近江他, 2017 ; 山崎, 2017 ; 中村, 2017 ; 馬杉他, 2018 ; 市橋, 2017 ; 鈴木, 2015）があった。

近江他（2017, 75-76）は、弾き歌いの指導について、「ピアノを弾けるようにする・歌詞を読み理解する・歌詞はある程度覚える・ピアノを弾きながら歌う」という手順で練習することが重要と述べている。山崎（2017,

177) は、「スリーコード伴奏法」^{注1)}を弾き歌いの練習に導入することは学生の練習意欲を増大させると述べている。中村(2017, 108)は、学生が「自分で計画を立て、それぞれのピアノ担当教員に提出させる」ようにしたことで効果があったと述べている。また、馬杉他(2018, 15)は、「弾き歌いでは、曲を習得する準備として、歌詞とその内容をわかりやすく伝えることを優先した指使いをまず検討していきたい」と述べている。市橋(2017, 75)は、学生の弾き歌いの修得に向けた指導法^{注2)}を考案した。鈴木(2015, 80)は、学生に対して「ピアノが弾けるようになることが目的だったところに、言葉による歌詞が付き、主役がピアノから歌へ移行する」ことを伝えるようにしたと述べている。近江他(2017)、山崎(2017)、中村(2017)は、自らで考えた指導法にもとづいてその効果について述べている。また、馬杉他(2018)、(市橋, 2017)、(鈴木, 2015)は、指導に対する展望について述べている。これらのことから、ピアノによる弾き歌いには、伴奏の仕方の指導について検討する必要があると考えているといえる。しかし、学生の中にはピアノによる弾き歌いの必要性を理解していても実際に行うことが難しい場合もある。

近年、ギターによる弾き歌いの指導を取り入れる場面がある。保育者の採用試験の際に、弾き歌いをピアノでもギターでもよいとしている保育・教育施設もある。このことから、ギターによる弾き歌いの指導の可能性を考えている先行研究に、加藤・手良村(2017)のものがある。加藤ら(2017)は、伴奏楽器としてのピアノとギターのメリット・デメリットを示す中でギター伴奏が子どもの活動場所に合わせて行うことが可能であり、また、演奏技術が必要であるが、技術の習得がピアノと比較して容易であると述べている。しかし、ギターは、バレーコードが難しい。スリーコードのCやGのコードは演奏可能でもFのコードが難しい。また、佐藤(2015, 53)は、「手の小さい生徒には大変困難で、手の型によっては不可能なポジションさえある」と述べている。このことから、ピアノやギターの他に、歌の伴奏楽器として用いることが可能な楽器を検討することが必要である。

ピアノやギターの他に歌の伴奏楽器として用いることが可能な楽器を、再度、CiNiiで検索してみると、佐藤(2015)のウクレレを用いた指導に関する先行研究があっ

た。佐藤(2015)は、ギターの弦は6本であるがウクレレは4本であるためにネックが細く弾きやすいと述べている。しかし、高校生がウクレレに関心をもつための指導である。保育の場でウクレレを伴奏楽器として用いていくためには、保育者養成校においてウクレレを用いた指導を行っていく必要がある。保育者養成校における授業担当者が、どのように授業を組み立てて指導をしていくことが、伴奏楽器としてのウクレレの弾き方の修得に有効であるのかを検討していく必要がある。ピアノは両手を使わなければならないので難しい、特に、左指は難しい。ギターは、楽器も大きく、コードが難しい、手の型によって弾きにくいことがある。これらのことから、ウクレレは、弦が少ないのでコードが覚えやすいし、伴奏しながら歌を歌いやすいというメリットがあると考えられる。

そこで、本研究では、保育者養成校の「表現」の授業を履修し、ウクレレを体験した学生の自由記述より歌の伴奏楽器として「ウクレレ」を用いることの可能性を探ることとする。

2. 方 法

(1) 授業計画の作成

15分から20分程度の時間でウクレレ体験をするための授業計画を立てた。まず、6人ずつのグループで持ち方とストロークの練習をした。次に、Cコードのみ(赤のシール)で演奏できるドイツ民謡「かえるのがっしょう」を練習するようにした。その後、C(赤のシール)、F(黄色のシール)、G₇(青のシール)の3つのコードで演奏することができる文部省唱歌「ゆき」の練習をするようにした^{注3)}。

(2) 自由記述調査の協力へのお願い

2019(平成31)年1月中旬に、表現系の授業を履修している履修者80名に対して研究の趣旨を説明し、アンケートの協力を依頼した。協力に同意が得られた67人の履修生を6名ずつのグループに編成してウクレレ体験を実施した。体験後に、ウクレレを弾いてみての感想を自由記述形式で記載してもらった。

(3) 結果の分類整理

得られた自由記述を、KJ法(川喜田:1970)をもとに

して分類整理し、表の作成、図解化、文章化し、それにもとづいて、歌の伴奏楽器として「ウクレレ」を用いることの可能性を探った。なお、分類整理については、10以下になるまでグループ編成を行った後、データラベルを〈 〉で示し、第1段階のグループ編成を〔 〕で示した。表、図においては、番号を示しており、文章化の中では、その番号のとおり述べていった。

（４）倫理的配慮

本研究をするにあたり、研究協力者に研究の趣旨を説明し、同意を得た後に自由記述アンケート調査を実施した。

３．結 果

（１）分類整理

80名に依頼してそのうちの67名から回答が得られた。67名の協力者の自由記述アンケートを分類整理すると、49〈データラベル〉ができた。それらにもとづいて、第1段階のグループ編成を行うと、6, 7の〈データラベル〉を除く47の〈データラベル〉で8〔グループ〕ができた。グループ編成が10以下になったので、これらにもとづいて表を作成すると（表1）のようになった。

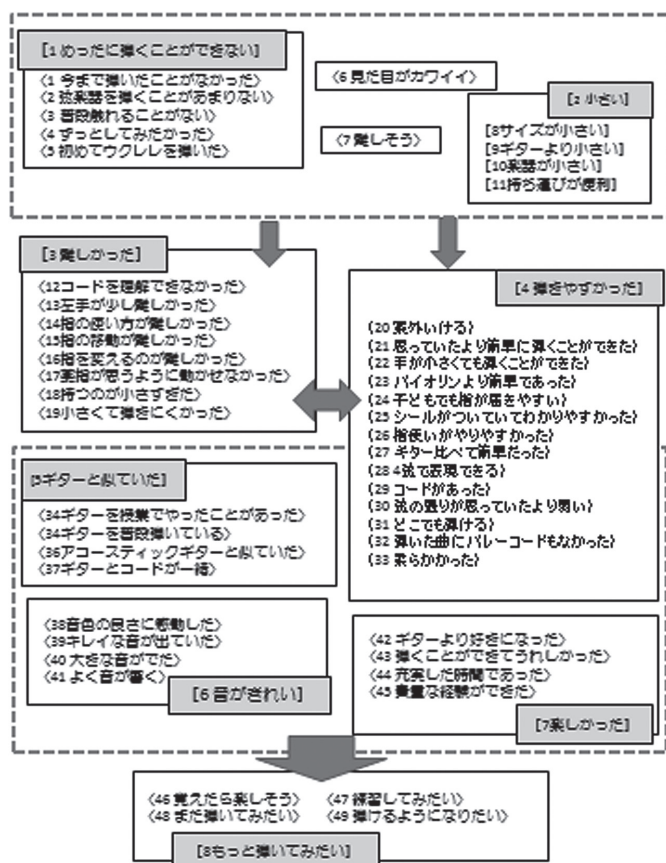
（表1）ウクレレを弾いての感想

〔第1段階のグループ編成〕	〈データラベル〉
[1 めったに弾くことができない]	〈1 今まで弾いたことがなかった〉
	〈2 弦楽器を弾く機会があまりない〉
	〈3 普段触れることがない〉
	〈4 ずっとしてみたかった〉
	〈5 初めてウクレレを弾いた〉
	〈6 見た目がカワイイ〉
	〈7 難しそう〉
[2 小さい]	〈8 サイズが小さい〉
	〈9 ギターより小さい〉
	〈10 楽器が小さい〉
	〈11 持ち運びが便利〉
[3 難しかった]	〈12 コードを理解できなかった〉
	〈13 左手が少し難しかった〉
	〈14 指の使い方が難しかった〉
	〈15 指の位置に移動するのが難しかった〉
	〈16 指を変えるのが難しかった〉

[3 難しかった]	〈17 薬指が思うように動かせなかった〉
	〈18 持つのが小さすぎた〉
	〈19 小さくて弾きにくかった〉
[4 弾きやすかった]	〈20 案外いける〉
	〈21 思っていたより簡単に弾くことができた〉
	〈22 手が小さくても弾くことができた〉
	〈23 バイオリンより簡単であった〉
	〈24 子どもでも指が届きやすい〉
	〈25 シールがついていてわかりやすかった〉
	〈26 指使いがやりやすかった〉
	〈27 ギターと比べて簡単だった〉
	〈28 4弦で表現できる〉
	〈29 コードがあった〉
	〈30 弦の張りが思っていたより弱い〉
	〈32 どこでも弾ける〉
	〈33 弾いた曲にバレーコードもなかった〉
	〈35 柔らかかった〉
[5 ギターと似ていた]	〈36 ギターを授業でやったことがあった〉
	〈37 ギターを普段弾いている〉
	〈38 アコースティックギターと似ていた〉
	〈39 ギターとコードが一緒〉
[6 音がきれい]	〈40 音色の良さに感動した〉
	〈41 キレイな音が出ていた〉
	〈42 大きな音がでた〉
	〈43 よく音が響く〉
[7 楽しかった]	〈44 ギターより好きになった〉
	〈45 弾くことができてうれしかった〉
	〈46 充実した時間であった〉
	〈47 貴重な経験ができた〉
[8 もっと弾いてみたい]	〈48 覚えたら楽しそう〉
	〈49 練習してみたい〉
	〈50 また弾いてみたい〉
	〈51 弾けるようになりたい〉

（２）図解化と文章化

（表1）をもとに図解化すると（図1）のようになった。



(図1) ウクレレを弾いての感想

(図1) をもとに文章化すると次のようになった。

ウクレレという楽器は、〈1 今まで弾いたことがなかった〉、〈2 弦楽器を弾く機会があまりない〉が〈3 普段触れることがない〉ものであり、〈4 ずっとして来たかった〉し、今回、〈5 初めて弾いた〉。[1 めったに弾くことができない] 楽器であった。

それは、〈6 見た目がカワイイ〉けれど〈7 難しそう〉だと思った。

また、[2 小さい]、具体的には、〈8 サイズが小さい〉、〈9 ギターより小さい〉、〈10 楽器が小さい〉ので、〈11 持ち運びが便利〉であると思った。

実際に弾いてみると、[3 楽しかった]、[4 弾きやすかった] という対極の意見が出た。

[3 楽しかった] 理由としては、〈12 コードを理解できなかった〉、〈13 左手が少し〉・〈14 指の使い方が〉・〈15 指の位置に移動するのが〉・〈16 指を変えるのが〉難しかった、〈17 薬指が思うように動かせなかった〉、〈18

持ちつのが小さすぎた〉、〈19 小さくて弾きにくかった〉ということであった。

逆に、[4 弾きやすかった] 理由としては、〈20 案外いける〉、〈21 思っていたより簡単に弾くことができた〉、〈22 手が小さくても弾くことができた〉、〈23 バイオリンより簡単であった〉、〈24 子どもでも指が届きやすい〉、〈25 シールがついていてわかりやすかった〉。また、〈26 指使いがやりやすかった〉、〈27 ギターと比べて簡単だった〉、〈28 4弦で表現できる〉、〈29 コードがあった〉、〈30 弦の張りが思っていたより弱い〉、〈32 どこでも弾ける〉、〈33 弾いた曲にバレーコードもなかった〉、〈35 柔らかかった〉があった。

具体的には、〈36 ギターを授業でやったことがあった〉、〈37 ギターを普段弾いている〉、〈38 アコースティックギターと似ていた〉こともあり、〈39 ギターとコードが一緒〉で [5 ギターと似ていた] ということである。ウクレレを弾いて、まず、〈40 音色の良さに感動した〉、〈41 キレイな音が出ていた〉、そして、〈42 大きな音がでた〉ことで〈43 よく音が響く〉ので、[6 音がきれい] だった。

それによって、〈44 ギターより好きになった〉、〈45 弾くことができてうれしかった〉、ウクレレを弾いた時間は〈46 充実した時間であった〉、〈47 貴重な経験ができた〉と感じた。[7 楽しかった]。

ウクレレは、〈48 覚えたら楽しそう〉であり、〈49 練習してみたい〉、〈50 また弾いてみたい〉し、〈51 弾けるようになりたい〉と感じた。ウクレレを [8 もっと弾いてみたい] と考えた。

4. 考察

本研究では、保育者養成校の授業「表現」のなかでウクレレを体験した学生の自由記述より歌の伴奏楽器として「ウクレレ」を用いることの可能性を探った。

2019 (平成31) 年1月中旬に、表現系の授業を履修している履修者に対して研究の趣旨を説明し、ウクレレを弾いてみての感想を自由記述形式で記載してもらった。

研究の結果、ウクレレを弾くことは、初めての経験である履修生が、見た目はカワイイが難しそう、ギターより楽器が小さくて持ち運びしやすそうとイメージしてい

た。今回の体験で実際に弾いてみると、難しい、弾きやすいという対極的な感想があった。

難しいと感じた学生は、指の使い方、小さくて持ちにくいと感じていた。このことから、ウクレレを伴奏楽器として用いることの可能性を考えるのであれば、指導者は、指使いの指導の方法、持ちにくいと感じている者に対しては、持ち方の工夫、弾きやすい曲を検討していく必要がある。

また、弾きやすいと感じた学生は、ギターを弾いていた経験があり、コードで演奏していく方法の理解がしやすかった、楽器が小さいので手が小さくても弾きやすかったと感じていた。そして、ウクレレを弾くことによって出てくる音色を心地よく感じており、楽しいと感じていた。これは、学生の感想の中に〈25 シールがついてわかりやすかった〉があったように、指導者が、指使いをわかりやすくするために、使用するコードにそれぞれシールをつけ、経験者・未経験者によらず、弾くコードがわかるように工夫したことが弾きやすかったという感想につながったといえる。指導者が、学生へのウクレレ指導に備えて、1つのコードで弾くことのできる曲、それができたら3つのコードで弾くことのできる曲を選曲し、段階を経た指導をした成果であるといえる。課題として出された曲を、ウクレレを使って弾いてみる授業で、ウクレレを体験し、実際に自分のイメージ通りに弾くことができた経験が学生にとっての充実した経験となり、ウクレレへの関心が高まったと考える。

本研究では、授業でウクレレを用いて演奏を行い、学生がウクレレで曲を弾くことができるようになり、ウクレレを用いて歌の伴奏の演奏ができるようになったことは一定の評価をすることができる。学生が弾きやすい曲を選曲したこと、コードがわかるようにシールで示したことがウクレレへの関心を深めたと考えることができる。しかし、そのウクレレを、学生が伴奏にして歌を歌うことができるように、学生が弾きやすいと考える曲で時間をかけて練習を行っていく必要があるといえる。

日本の保育者養成校では、保育者の採用試験対策としてピアノでの弾き歌いが必要不可欠である。ピアノは、弾き歌いのとき、右手でメロディーを弾き、左手で伴奏をして演奏することができ、右手で歌の音程をサポートしているため、歌いやすい。一方、ウクレレはメロディー

と伴奏を一度に演奏することは技術上かなり高度であるため、歌の伴奏としては、メロディーパートは歌い、伴奏パートをウクレレで演奏することになる場合が多い。そうすると、子ども達にきちんとした音程で指導するためには、保育者が自信をもって音程を外すことなく歌うということが、子どもの歌唱の土台になるため、保育者の歌唱力が求められる。このような問題点を可能にすれば、ウクレレは保育の様々な場面で活躍する楽器となり得る。アンケート調査の後に、保育現場でウクレレを活用している保育者に「保育の場でウクレレを使用してみたの感想」を聞いてみると、「ウクレレは、音色が優しいので乳児の部屋でも演奏が可能である、トイレの待ち時間などにも使っている、保育者がピアノを弾いている姿を真似する子どもは少ないが、ウクレレを弾く姿を真似する子どもは、今まで勤務した複数の園で、どの年齢にも必ず見られた」という様子を聞くことができた。このことから、保育現場で歌の伴奏楽器としてだけではない「ウクレレ」を用いることの可能性についても、さらに検討していくことが必要であるといえる。

謝辞 本研究をするにあたり、アンケート調査に協力をいただいた皆様方に感謝の意を表する。

注)

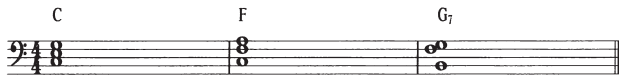
注1) スリーコード伴奏法について

詳細については、「山崎祐子 (2017) 『スリーコード伴奏法』の導入と成果～豊富なレパートリーの為の取り組み～」『常葉大学短期大学部紀要』48, pp. 167-178”を参照されたい。

コード (和音) 伴奏は、和音をC, D, E, F, G, A, Gm, 等の記号に置き換えて表したコード記号を見ながら伴奏を弾く伴奏法である。従って楽譜にコード記号が記してあれば、その記号が示す和音を基に伴奏を弾くことができる。

まず初めに、ピアノを弾く上で最も初歩的なハ長調の歌を取り上げ、使用するコードはC, F, G $\bar{7}$ の3つに限定し、これを「スリーコード」とした。左手で弾く音は下記の和音に固定し、これを繰り返し弾い

て覚える。



(図2) スリーコードの楽譜

注2) 市橋 (2017, 75-78) が考える「弾き歌い指導のステップ」は下記のとおりである。

①楽譜から音楽情報を読み取る。

調, 拍子, 速度, メロディー, リズムなど

②高音部譜表 (おおよそ音記号) の楽譜を読み取る。

③高音部譜表の楽譜に書かれている音符や休符などの音楽情報, 鍵盤の位置を確認しながら, 右手でピアノを弾く。

④低音部譜表 (おおよそ音記号) の楽譜を読み取る。

⑤低音部譜表の楽譜に書かれている音符や休符などの音楽情報を, 鍵盤の位置を確認しながら, 左手でピアノを弾く。

⑥歌詞を読み取り, その歌詞の内容やイメージをふくらませ歌詞を覚える。

⑦高音部譜表を右手でピアノを弾きながら歌を口ずさみ, 歌のおおまかなイメージを掴む。慣れてきたら徐々に大きな声で歌う。

⑧高音部譜表と低音部譜表の楽譜を見ながら, 右手と左手を合わせ両手でピアノを弾く。

⑨両手でピアノ伴奏をしながら歌を歌い, 「弾き歌い」をする。

⑩保育現場で自分の目の前に子どもがいることをイメージして, 子どもたちの様子を見たり支援をしたりしながら「弾き歌い」をする。

注3) ウクレレに貼ったシールは写真のとおりである。



(写真1)



(写真2)

文 献

川喜田二郎 (1970) 『続・発想法 KJ法の展開と応用』
中央公論新社

全国保育士会編 (2017) 『～平成29年3月31日告示～保
育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育
要領 幼稚園教育要領』全国社会福祉協議会

近江秀崇 (2017) 「保育者養成校における子どもの歌の
弾き歌いの重要性—指導法に関する一考察—」『中
京学院大学短期大学部研究紀要』48 (1), pp. 67-76

中村礼香 (2017) 「保育者養成校における学生のピアノ
に関する意識調査」『鹿児島女子短期大学紀要』52,
pp. 103-108

馬杉知佐他 (2018) 「幼児教育における弾き歌いの考察
—音楽的・技術的なアプローチを含む—」『和顔愛語』
46, pp. 1-18

山崎祐子 (2017) 『スリーコード伴奏法』の導入と成果
～豊富なレパートリーの為の取り組み～』『常葉大
学短期大学部紀要』48, pp. 167-178

市橋佳明 (2017) 「ピアノの弾き歌いにおける指導の実
践研究」『中部学院大学・中部学院大学短期大学部
教育実践研究』2, pp. 67-76

鈴木由美子 (2015) 「初等教育課程教員及び保育士養成
校におけるピアノ実技指導に関する一考察」『千葉
敬愛短期大学紀要』37, pp. 73-83

加藤あや子, 手良村昭子 (2017) 「幼児教育におけるギター
活用の可能性についての覚書—ピアノの補助学期地
としてのギターの可能性と問題点—」38, pp. 1-8

佐藤雄紀 (2015) 「高等学校の音楽 I におけるウクレレ
指導についての一考察—授業実践と事前事後アン
ケート調査をもとに教育機器としての可能性を探る
—」『芸術研究 玉川大学芸術学部研究紀要』7,
pp. 53-68